

2021年度法学部一般選抜 論述力出題意図

「個人と社会の緊張と対立」について受験生の考えを示してもらおう。いささか抽象的な問いではあるが、それゆえに「発想力」「構成力」「表現力」が試され、差も出るのではないかと願っている。

「理解力」をはかる基準としては、以下をご参照いただきたい。

- (1) 著者は、政治と文学のいずれの重要性も認めており、両者の優劣を論じているわけではない。
- (2) ただ、両者の目的を截然と区別する必要を説いている。政治は「九十九匹」に配慮、文学はそこから漏れる「一匹」を救おうとする。
- (3) よい政治は自らの限界を意識して、一匹の救済を文学に期待する。
- (4) そして、一匹を救うことが「すべて（の人間）」を救うことになるという、通常のロジックを超えたロジックを提示している。
- (5) 個人と社会との緊張対立関係に注目しつつ、一方を他方に還元する一元的思考を批判している。
- (6) 個人と社会が矛盾対立しうることを認識しつつも、その矛盾対立を矛盾対立として受け止めることが重要である。